

第 6 回 2019 年 10 月 17 日 (木)

第 6 回の一류塾では、講師に大山健太郎氏 (アイリスグループ 会長)、一流塾特別顧問の福川伸次氏 ((一財)地球産業文化研究所顧問、東洋大学総長、元通商産業事務次官) を、懇親会の特別ゲストには室瀬和美氏 (漆芸家、重要無形文化財「蒔絵」保持者(人間国宝))、一流塾顧問 渡邊五郎氏をお迎えしました。



【講師 大山氏】

第 1 部では、『ユーザーインの経営』と題して大山氏が講義を行いました。冒頭ではアイリスオーヤマの社史を上映いただき、オイルショックの経験から「永遠に継続すること」「倒産しない経営」を企業理念としマーケットインを経て、生活者目線のユーザーイン経営へ常に視点を変えて業態を転換してきた過程をご説明頂きました。3 年以内に開発された新商品が 62 パーセントであり、商品開発の仕組みについても、「誰のために何を作るのか」という視点であること、常にユーザー目線で見ることがビジネスチャンスの塊であるとお話いただきました。また東北を代表する企業の責任として復興支援と生活者目線を兼ね備えたアグリ事業の展開や、そのアグリ事業の一例であるバックご飯とその対極にある炊飯器の両方を取り扱う、というユーザー目線を重視した大胆なイノベーション例をご紹介頂きました。塾生からは「ユーザー目線が常に徹底されていることに感動した。」「ジャパンソリューションという社会課題を解決しつつも企業の存立も 1 番に考えるスケールの大きさを感じた」といった声があがりました。

第 2 部では、『世界が変わる、日本はどうする一歴史的な転換期に日本力再生の途を探る一』と題して福川氏が講義を行いました。前半では、福川氏ならではのご経験や卓越した情報収集力に基づく多角的分析に基づき、世界の中での日本の立ち位置をわかりやすくご説明いただき、日本が戦後の復興からなぜ現在の停滞過程に陥ったのかを的確に指摘されました。後半は、日本の強みと弱みを明確に示しながら、「日本力」を発揮してグローバリズムの進化とイノベーションの展開の重要性をお伝え頂きました。最後には、これらを踏まえて人間の価値尊重と能力高揚の社会を実現するには、政府・政治家・行政・企業が取り組んでいかなくてはならないと締めくくられました。福川氏の鋭くかつ明快な分析に、塾生から、「福川先生の知識量と難しい事を分かりやすくご説明なされる点に感動した」「日本力再生に何ができるか考えさせられた」といった声が上がりました。



【講師 福川氏】

懇親会では、一柳塾長による開会の挨拶ならびに福川氏による乾杯の後、特別ゲストの室瀬氏から『日本文化と経済』と題して卓話を頂きました。まず、室瀬氏が作品を完成させるまでの繊細な実際の工程を動画で見せていただいた後、海外では古くは「漆」は「japan」と称され賞賛されてきたが、日本では欧化主義のあおりを受け「ラッカー」と呼ばれその文化的存在感が薄れてしまった事や、飯椀や茶碗を使い分ける意味は、「美味しく食事をいただくための日本の文化」と、分かり易く語られました。伝統を受け継ぐ人間国宝の室瀬氏から語られた、普段触れることが少ない漆の文化のお話塾生はとても刺激を受けたようでした。塾生からは「海外の取引先に漆のお盆を差し上げる機会が多いが、改めて漆の魅力を聞くことが出来、日本人として世界に誇れる漆の話をする事が出来る」などの声が上がりました。室瀬氏からも伝統工芸の文化を大切にしてくださいとともに、グローバルな時代の経営者であれば、経済と共に日本文化を語れる存在であってほしい、と塾生達を激励されました。



【顧問 渡邊氏】

懇親会後には、塾生有志による塾長を囲む放談会が開催され、ゲストの室瀬氏もご参加いただき、講義の感想など多様な話題で遅くまで大いに盛り上がりました。



【特別ゲスト 室瀬氏】



【懇親会風景】



【放談会風景】